

県政モニタートーク結果概要

対話テーマ：平和祈念館の取組

開催日時：令和 8 年（2026 年）9 月 5 日（土）13 時 00 から 14 時 45 分

参加者数：県政モニター 4 名（欠席 2 名）、県（平和祈念館）5 名

概要：

平和祈念館では、令和 8 年度中に次期「滋賀県平和祈念館第四期計画」（計画期間：2027 年度～2031 年度）を策定することとしており、本計画の検討にあたり、広く県民の声を反映させるため、本モニタートークを開催した。

はじめに当館の展示を見学していただき、活動等について紹介したうえで、参加者に質問を投げかける形式で御意見をいただいた。

○平和祈念館の展示や活動に関する感想

- ・ 滋賀県にも空襲があったことを知らなかった。
- ・ 展示は見やすく非常に良いが、来館者が少なくもったいない。
- ・ 展示が低いところにあり、校外学習向けなのかと感じた。
- ・ 大人にもたくさん来てもらえるような工夫があればよいと感じた。
- ・ 来館前に展示等について事前に学習できるため、YouTube での情報発信は良い取組だと思った。
- ・ 当時の実物が多く展示されており、子どもにも親しみやすいと感じた。
- ・ 展示物には触れられないことが多いが、防空頭巾や背囊などの触れられる展示があり、大変よかったと思う。
- ・ 戦争関係の博物館等は、照明が暗く、怖い印象を受けてしまうが、平和祈念館は館内が明るく、展示も見やすかった。

○自分と同世代の家族や友人を平和祈念館に連れてこようと感じたか

- ・ 展示内容について、広島原爆ドームなどのように凄惨なものではないため、来やすさは感じたが、立地がすごくネックになっていると思った。
- ・ 戦争のことについて知りたいという人であれば、一緒に行こうと声をかけることはできと思うし、自分自身はまた来たいと感じた。
- ・ 気軽に戦争のことを学べる施設であり、友人を誘うこともできるなど感じた。
- ・ 身近な場所の歴史を学ぶことができる施設であり、友人を誘うこともできるなど感じた。

○入口に入って最初に感じたことは

- ・ 広い空間だなと感じた。
- ・ 発掘したエンジンが展示してあり、非常に迫力があつた。また、歴史を感じた。
- ・ 怖い映像などの音の刺激がなく、展示に集中できた。
- ・ 入口付近に休憩室や椅子が用意してあつたのがよかった。

○新たな展示の提案

- ・ 触れる展示の更なる拡充
- ・ イベント時などの食べ物の提供
- ・ 祈念館の場所がわかりにくいため、外に看板やのぼり旗の設置
- ・ 戦時中から現在まで、どのように変化してきたかがわかるような写真の展示（年代ごと、場所ごとに）
- ・ 企画展の内容をアンケートで決めるなど、来館者の意見を反映できるような仕組みの導入
- ・ 戦時食のワークショップ（平和祈念館主催で、県内の様々なところで開催）